



「ロボット競技の甲子園」
とも言われる高等学校ロボ
ット競技大会。11月9日
に宮城県で開催される全国
大会には、各県の予選を勝
ち抜いた128チームが集
結する。宮崎県予選で1・
2位を獲得し、全国に出場
するのが、小林秀峰高校・
機械部の2チーム。秀峰・
機械部は、小林工業時代か
ら全国大会の常連としてそ
の名を馳せてきた。優勝こ
そ逃しているが、上位入賞
を何度も経験。秀峰・機械
部が作るロボットは他校か
らも人気があり、全国大会
の会場では、開封された時
点で撮影が始まる程だ。

11位に輝いた。しかし部室
と違う会場の環境に対応し
きれないなど、悔いも残っ
た。「昨年の雪辱を晴らし、
今年絶対優勝する」と
話すのは、菅晴樹くん。県
予選を1位で勝ち抜いたロ
ボット「次元」の操縦者だ。
同じく県予選2位で全国に
行く「飛鷹」操縦者の有村
晃くんも菅くんは、保育園
のときから同じ学校に通う
同級生。良き好敵手として、
操縦の腕を競っている。練
習での勝敗は五分五分。「県
予選では負けただけ、全国
大会では、決勝で晴樹に
勝って優勝します」。幼少
期から切磋琢磨してきた親
友対決。最高の舞台での実
現に期待がかかる。

1 競技は2チームで対戦し、時間は3分間。プラスチックボトルを回収し、相手
ゴールに打ち合うルール。競技に参加できるのは、操縦者と補助の2人。2 練習
試合の合間には整備を行う。この積み重ねが本番のアクシデント対処に生きてく
る。3 「次元」と「飛鷹」の設計のこだわりは、回転しながらボトル8本を一気
に込めることができるシリンダー（円筒）。4 練習試合ごとに反省点を書き出し、
改善を図ってきた。300回を超える試合の結果がづられている。5 競技は、
操縦するリモコンロボットと、自立する子機ロボットの1組で戦う。6 競技コー
トも自作。いかに本番の環境を再現できるかも、勝つために必要な要素となる

6	4	3	1
	5		2

写真

小林

こばやしびと
Vol.45

集めるのが、整備担当の
横山靖弥くん。2年生の
ときに、宮崎県の高校生初
となる「技能検定試験普通
旋盤2級」に合格したこと
でも世間を沸かせた逸材。
「決められた仕事は完璧に
こなす。メンテナンズ員と
して完璧な存在」と仲間か
らの信望は厚い。

そんな個性豊かな機械
部を支えるのが、顧問の
串木野健二先生。「機械部
はものづくりの場でもあ
り、ひとづくりの場でもあ
ります。部活の経験が生徒
の自信、探究心や夢につな
がっているようです。」
それぞれの思いを胸に挑
む高校最後の大会。悔いが
残らないよう全力でぶつ
かってきてほしい。

目指せ頂点。全国高等学校ロボット競技大会に出場

小林秀峰高校・機械部

チーム「秀峰次元」 左上から横山靖弥くん（北西方）、
古川瑠弥くん（えびの市真幸）、前原昂平くん（えびの市上江）、
左下から山下涼介くん（えびの市真幸）、菅晴樹くん（堤）

チーム「秀峰飛鷹」 左上から橋本瑞樹くん（えびの市飯
野）、川平基稀くん（都城市高崎）、左下から有村晃くん（堤）、
迫田裕斗くん（えびの市真幸）



市出身の部員紹介

●チームと担当●ロボット・機械に魅かれたきっかけ●将来の夢

菅晴樹くん（機械科3年）

●「次元」の操縦担当●機械部がきっかけ。部活で競技用ロボットを扱ううちに興味を持った。●深海など人がいけない場所に行くロボットの研究がしたい。



有村晃くん（機械科3年）

●「飛鷹」の操縦担当●小さいころに見たテレビ、映画やプラモデルで憧れて。●災害現場など人が入れないところで、人と同じような活動ができるロボットを作りたい。



横山靖弥くん（機械科3年）

●「次元」の整備担当●旋盤を学ぶうちに、ものづくりの楽しさを知った。●機械には全ての部分・部品に人の思いが詰まっている。そんな開発現場で働きたい。

